

我国の遊園地・テーマパーク産業の生成と発展

中 島 恵

1. はじめに

本稿では、我国の遊園地・テーマパーク産業の生成と発展の歴史を検証する。そのためにテーマパークと遊園地の差異を示し、我国のテーマパーク産業の歴史と現状を検証する。

初めにテーマパークと遊園地の差異と定義を示すこととする。テーマパークとは、従来型のハード中心の遊園地と異なって、明確なテーマを持ち建設当初から既にテーマパークとして建設されたものである（奥野、2003）。例えば、サンリオ・ピューロランド、グリック王国、カナディアンワールド、倉敷チボリ公園、スペースワールド、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®（以降、USJ：Universal Studio Japan）、そして東京ディズニーリゾート（以降、TDR：Tokyo Disney Resort）である。東京ディズニーリゾートとは、東京ディズニーランド（TDR）と東京ディズニーシー、イクスピアリ、モノレール、ホテル等を併せたリゾートエリア全体を指す。

サンリオ・ピューロランド¹（東京都多摩市）は、株式会社サンリオの関連会社である株式会社サンリオ・ピューロランドが経営するテーマパークであり、サンリオのヒットキャラクターを用いたアトラクション、ショーなどを中心としている。ハウステンボス（長崎県佐世保市）は、17世紀のオランダをテーマにしたホテル、飲食店、ショッピング一体型のテーマパークである。グリック王国²（北海道帯広市）は、中世グリム童話の世界をテーマとしドイツの町並みの再現で、スペースワールド³（福岡県北九州市）は宇宙と宇宙旅行をテーマとしている。そしてUSJはハリウッドの映画と映画作りの舞台裏をテーマにし、TDRはウォルト・ディズニーのアニメ映画の世界をテーマにしている。こういった施設がテーマパークである。特にTDRは驚くほどテーマの一貫性にこだわっている。

テーマパークと区別して、明確なテーマを持たない従来型の遊園地を本研究では遊園地と呼ぶ。遊園地は上述のような特色あるコンセプトをもたず、昔ながらのメリーゴーランドやジェットコースター、観覧車、コーヒーカップ、海賊船などの乗り物をもつ。乗り物に乗っている時だけが楽しい時間で、乗り物以外の景色やベンチ、電灯などのデザインにテーマ性・統一性はない。しかもこれらの遊園地の乗り物のほとんどが内製ではなく、外部の乗り物業者からのリースであるため、どの遊園地もよく似ていて独自性が低い。また遊園地は、飲食店も直営ではなく、外部の飲食店業者をテナントとして入れているため、お皿や紙コップもありふれたデザインで特色や独自性がない。それに対してTDRは、飲食店も全て直営であり、お皿や紙コップ、紙ナプキン、手をつかんでかじる食べ物（チュロス、パイ、チキン等）を包む紙、ポップコーンを入れるボール紙でできた箱にいたるまで、一貫してテーマに関係あるデザインにこだわっている（西村、2001）。

遊園地とテーマパークの差異を比較すると、立地、商圈、滞在日数、来客ピーク、規模、料金などにおいて差はあるものの、それほど大きな差はない。両者の最も大きな差異は、コンセ

プトである。本稿において、テーマパークとは明確なテーマを持ち、乗り物、ショー、パレードなどの体験、見学などを主なサービスとするレジャー施設と定義する。そして遊園地とは、明確なテーマを持たず、乗り物、ショー、パレードなどの体験、見学などを主なサービスとするレジャー施設と定義する。

2. 我国の遊園地・テーマパーク産業の歴史

我国の遊園地・テーマパーク産業の歴史はどのようなものだろうか。

我国の主な遊園地開発の一つは、民間鉄道会社の郊外の開発である（総合ユニコム、2008）。民間鉄道会社が沿線開発と乗客増を目的に遊園地を開設したのである。特に平日昼間と休日の乗客数を増やすために、民間鉄道会社は沿線の駅近くに遊園地・テーマパークを開発した。その端緒となったのが、阪急電鉄株式会社が開発した宝塚ファミリーランド⁴となる旧「宝塚新温泉」である。現在も年間 100 万人以上集客するひらかたパーク（大阪府枚方市）は阪急電気鉄道株式会社に、としまえん（東京都練馬区）は西武鉄道株式会社に開発されている。

1950 年代半ば以降になると、ジェットコースター等の大型機械を導入した大規模な遊園地が各地で登場する。それによって、ファミリー層を中心顧客としていた遊園地は若者を誘引することに成功した。自動車の普及に伴って行動範囲が拡大した若者たちは遠方にもスリルを求めて出向くようになった。1983 年にテーマパークである TDL と長崎オランダ村が開園し、テーマパーク元年と言われる年となったのである（総合ユニコム、2008）。

その後、1987 年の改正リゾート法（総合保養地整備法⁵）の施行でリゾート開発が盛んになり、遊園地・テーマパークも設立ラッシュとなり、バブル景気へと向かっていく。1989 年、1990 年、1991 年と、特にバブル期にテーマパークが矢継ぎ早に設立されていった。バブル崩壊後の平成不況期もテーマパークの設立は続き、同時に集客力のないテーマパークの閉鎖が目立つようになった。

2000 年代に入り、TDS 開業（2001 年）、大阪市此花区に USJ 開業（2002 年）で東西二強時代に突入した。特に TDR は集客増となり、マスコミでも盛んに報道されるようになった。そのあおりを受け、2000 年代、遊園地・テーマパークの閉園が相次いだ。特に関東および関西で閉園するテーマパークが多い。これは、関東圏および関西圏でテーマパークに行こうとしたら TDR または USJ に行き、地域密着型の中小規模のテーマパークに行かない人が増えたためではないか。

2-1. 草創期

ここから各段階の詳細を見ていこう。

日本初の遊園地は、驚くことに明治時代の終わりに開業されている。そして大正時代に 3 つの遊園地が開業されている。明治大正時代の日本といえばまさに発展途上国である。発展途上国の国民は遊園地で遊ぶ余裕などなく、小中学校⁶ さえ充分に通えずに家業（主として農業、漁業）を手伝ったり、丁稚奉公などに出て本格的に働いていたものである。それでも庶民はお腹いっぱい食べることができなかった時代である。遊園地で遊ぶお金などない。当時の遊園地は一部の富裕層を対象にしていたことが伺える。

我国初の遊園地は1911（明治44）年に誕生した。それが宝塚新温泉（兵庫県宝塚市）である。当初は温泉メインであった。明治20年には、武庫川の右岸（現在の宝塚駅の対岸にある湯本町）に宝塚温泉が誕生し、明治44年には、対岸の左岸にも箕面有馬電気軌道（現在の阪急電鉄宝塚本線）により宝塚新温泉が開設され、さらに大阪府箕面市にあった動物園を移設するとともに、日本最初の室内プールなど最新の娯楽設備を整えた一大レジャーランド宝塚温泉パラダイス（後の宝塚ファミリーランド）が明治45年に開業した。その後、大正2年には、宝塚新温泉の入浴客へのサービスとして、宝塚唱歌隊（後の宝塚歌劇団）が結成され、日本ではじめての少女歌劇が公演された。宝塚歌劇は、1944（昭和19）年には戦争により一時閉鎖されたが、終戦後の1946（昭和21）年には再開し、ファンを定着させていき、1974（昭和49）年の第1回「ベルサイユのばら」公演で一大ブームを巻き起こしたのである⁷。このように遊園地・テーマパークは、富裕層が生活の質向上としての楽しみを求めたときに必要とされる産業であることが分かる。

我国2つ目の遊園地は京阪電鉄に開発されたひらかたパーク⁸である。1910（明治43）年に京阪電車が開通し、大阪と京都の両方面が鉄道で結ばれ便利になったことから徐々に市街化が進んだ。1912（明治45）年、ひらかたパーク（大阪府枚方市）が開業された。

大正時代に入り、3つの遊園地が開業している。あらかわ遊園（東京）、豊島園（東京）、近鉄あやめ池遊園地（奈良）である。そのうち、あらかわ遊園と豊島園（現「としまえん」）は健在である。あらかわ遊園はレトロな下町情緒、としまえんは絶叫マシンで集客している（2011年3月現在）。

昭和ヒトケタ（元年から9年まで）で、小田急向ヶ丘遊園（神奈川）とスカイランドいこま（奈良）が開業している。スカイランドいこまは健在である（2011年3月現在）。

1929（昭和4）年にスカイランドいこまが開業して以降、我国での遊園地新設はストップすることとなった。同年は世界恐慌の年である。昭和ヒトケタ半ばから始まる世界恐慌（1929年・昭和4年）は、我国経済に大打撃をもたらした。遊園地は生活に余裕がある人が、楽しみを求めて行くところであり、そういう人がマスでいる社会でのみ成立する産業である。

そのため1929年のスカイランドいこま開業以来、戦後1950年まで遊園地の新設が途絶えている。遊園地・テーマパークは、平和で豊かであることが前提の産業だからである。遊園地の開業が途絶えた期間の日本史を簡単に見てみよう。

1929年、我国は世界恐慌の影響を大きく受け、深刻な不況に見舞われた。植民地獲得を目指して満州事変（1931年）を起こし、1937年、日中戦争勃発、1939年、ドイツがポーランドに侵攻して第二次世界大戦勃発、そして1941年12月、真珠湾攻撃で太平洋戦争勃発、1942年10月、日本海軍がミッドウェー海戦で大敗し、戦局が完全に不利に傾く。以降我国は悲惨を極める。1945年、東京大空襲（3月）、アメリカ軍沖縄占拠（6月）、広島、長崎に原子爆弾投下（8月）、ポツダム宣言受諾で無条件降伏して敗戦、以降、世界中から本国を目指して引き上げが続く。住居不足、食料不足で貧困と大混乱を極めた。この期間、我国では遊園地設立どころではなかったのは容易に想像できる。その証拠に遊園地がまったく新設されなかった。

2-2. 発展期

悲惨だった昭和20年代前半を経て、1950（昭和25）年、西武園ゆうえんちと甲子園阪神

パークが開業した。この頃になると若干復興し、余裕が出てきたためと考えられる。西武園ゆうえんちは西武鉄道⁹の沿線開発で、甲子園阪神パークは阪神電鉄の沿線開発である。ただし遊園地開業は、計画立案から用地買収まで時間と費用がかかるため、西武園ゆうえんちも甲子園阪神パークも昭和 20 年代前半に計画が持ち上がったはずである。

1955（昭和 30）年は「もう戦後ではない」と『経済白書』に書かれ、それが流行語になった年である。ここから遊園地の新設が盛んになっている。1955 年に都心の大型遊園地、後樂園遊園地（東京・後樂園）が開業している。1955 年から 1960 年代、1970 年代と設立ラッシュが続く。主として中小規模の遊園地が設立されていった。東京周辺、大阪周辺のみならず地方にも設立されていることが分かる。後述するが、ディズニーグループがそうであるように、遊園地・テーマパークは、最初小さく作ってアトラクション等を追加しながら拡大していく。この期間に設立された施設で、現在も集客力があり知名度が高い施設は、後樂園遊園地（現東京ドームシティアトラクションズ）、富士急ハイランド、常磐ハワイアンセンター（現スパリゾートハワイアンズ）、東武動物公園等である。この期間に設立された施設は閉園に追い込まれた施設の方が多いほどである。遊園地・テーマパークの長期安定経営がいかに難しいか想像できる。後述するが、2000 年代に遊園地・テーマパークの閉園ラッシュが起こっている。それは 2000 年代前半の TDS、USJ の開業で、関東周辺と関西周辺のテーマパーク需要が両園に集中するようになったためと考えられる。

2-3. テーマパーク発展期

テーマパークの設立ラッシュは 1980 年代前半に始まる。1983 年に東京ディズニーランドと長崎オランダ村が開業したため、我国ではテーマパーク元年と言われている。前者はウォルト・ディズニーのアニメの世界の再現、後者はオランダの街並みの再現である。東京ディズニーランドの成功により、そこから遊園地ではなくテーマパークの設立ラッシュが起こる。それ以降、乗り物の集積である遊園地はあまり設立されなくなり、テーマを明確にしたテーマパークが設立されるようになっていく。例えば、スペースワールドは宇宙（スペース：Space）をテーマにし、日光江戸村は江戸時代を再現、東京セサミストリートはアメリカのテレビ番組「セサミストリート」をテーマにし、サンリオ・ピューロランドはサンリオのキャラクターをテーマにしている。

1994 年、新横浜ラーメン博物館が横浜市に開業する。1990 年代後半の B 級グルメブーム、特にラーメンブームに乗って新横浜ラーメン博物館が成功を収めた。そこからヒントを得て横濱カレーミュージアムが開業され、成功、以降フードテーマパークの設立ラッシュが起こる。フードテーマパークは比較的小規模な施設でも成立するため、全国でラーメン施設を中心に設立ラッシュが起こり、短期間で閉店ラッシュも起こった（中島、2009）。

一方、2001 年に USJ と TDS の設立で東西二強時代を向かえ、集客力のない遊園地・テーマパークの閉園ラッシュが起こり、2011 年現在も続いている。

そんな中、ニッチ市場として成功を収めているのがキッザニアである。ニッチ市場とは、ある市場の特定のニーズに対応した小さく特殊な市場で売上を上げ、独自の地位を築く企業である。リーダー企業（この場合 TDR）と直接競合しない。それに対して、チャレンジャー企業（この場合 USJ）はリーダー企業と直接競合するのである。2006 年キッザニア東京（東京）、2009 年キッザニア甲子園（兵庫）開業と、続けて成功を収めている。同施設は 3 歳から 15

歳までの子供の社会・職業体験施設という今までにないコンセプトで成功している。キッザニアは既存のテーマパークとは楽しみ方の質を変えている。乗り物に乗り、ショーやパレードを見るのではなく、子供が実在する様々な職業を体験するのである。

3. テーマパーク業界の現状

現在、TDR が日本の遊園地・テーマパークの中で圧倒的なシェアと人気を誇り、TDR に入場者数で敵う遊園地・テーマパークはない。「2000 年度年間売上高トップ 100」(図表 5)を見ると、遊園地・テーマパークの年間売上高、売上構成比、入場者数、一人当たり売上高が分かる。この中でも特に一人当たり売上高を見ると、25 の施設が 1000 円未満であり、その中の 9 施設が 500 円未満である。TDL の一人当たり売上高は 10571 円(2000 年度)であり、現在遊園地・テーマパークは、勝ち組と負け組みが明確に現れていると言えよう。一人当たり売上高が 5000 円以上の施設は TDL を除いて宝塚ファミリーランド(3 位・6251 円)、スバリゾートハワイアンズ(4 位・8294 円)、長崎西海楽園(28 位・8783 円)の 3 施設だけである。この 100 施設の一人当たり売上高の平均は約 2166 円である。ただし長崎西海楽園は 2007 年に閉園している。

それでは 2000 年代の我国のテーマパーク産業はどのような状況だったのか見てみよう。2000 年代初頭、我国は平成不況の真只中にあった。2002 年のアメリカの同時多発テロは世界的に観光自粛の動きをもたらした。SARS の流行はさらなる観光自粛を促し、観光産業にとって危機的な外部環境となった。テーマパーク産業にとって、2000 年代は試練の時期であった。

また 2001 年の TDS 開業、2001 年の USJ の開業は、テーマパークの東西二強時代をもたらし、それ以外のテーマパークにとっては一層の試練となった。2000 年代に多くの遊園地・テーマパークが閉園に陥っている(図表 1、2、3)。

テーマパーク元年(TDL 開業の 1983 年)以降、全国にたくさんのテーマパークが開業しているが(図表 3)、数年で閉園に追い込まれているものが多い。これは、TDR の「明確なテーマ設定」という点を安易に模倣しただけだからではないだろうか。例えば、グリニョック王国、カナディアンワールド、登別伊達時代村、加賀百万石時代村、柏崎トルコ村、富士ガリバー王国などは、明確なテーマは設定されていたものの、施設全体としての魅力に欠けていたのではないだろうか。また施設の規模が大きいと、初期投資額や維持費がかさみ収益を圧迫し、たとえ売上高を確保できていても、経営破綻に結びつきやすいのだろう。

またキッザニア東京の成功から、必ずしも大規模施設が魅力的とは言えないのではないか。キッザニアは中規模が適正規模であり、これ以上町のサイズを拡張しないと広報部長は述べている(中島、2010)。

4. ま と め

このよう当該産業の生成と発展の歴史をみると、豊かで平和な時代に設立されることが分かる。我国最初の遊園地は明治時代に、大正時代に 3 施設、昭和 2 年と 4 年に開業されていることから、富裕層がそれなりに国内に存在する社会では開業可能な産業であることが分かる。

この時代は民主化されておらず、一部の社会的経済的強者に富が集中していた。そのため富裕層がそういった施設を訪れ、楽しんでいたと考えられる。

その後、高度成長期から安定成長期に遊園地の設立ラッシュが起こり、1983年のTDLの成功を受けてテーマ性を絞ったテーマパークの設立が盛んになった。1987年の改正リゾート法の施工もリゾート開発を促進し、バブル景気へと向かう。2001年のTDSとUSJの開業で東西二強となり、集客力のない施設の閉園が相次いだ。そんな中、2000年代はフードテーマパークやキッザニアのようにTDR、USJとは明確にコンセプトの異なる中小規模のテーマパークが成功を取めている。中小規模の施設で入場無料または300円程度に抑え、各アトラクションで課金し飲食店を多くするというビジネスモデルにし、入場者数を確保する施設も複数ある（例えば、東京ドームシティアトラクションズ、八景島シーパラダイス、ナムコ・ナンジャタウン）。

当該産業は生活必需品ではなく、ゆとりがある中で余暇の質の向上、家族や仲間と楽しい時間共有といったニーズを満たすためにあるのである。そのため余裕のない時代は成立しにくい産業であり、家計において、景気が悪くなるとカットされやすい部分である。そのため競争に敗れ、閉園に追い込まれた遊園地・テーマパークが多い。東西二強時代以前は、地域密着型の遊園地・テーマパークがそれなりに集客できていたが、東西二強以降は遊園地・テーマパークに行くとしたらTDRまたはUSJに行くという文化が根付いてしまったのではないかと。それは両園にとっては集客につながり、より競争力を増していくだろう。

このように当該産業の歴史をみると、閉園に追い込まれた遊園地・テーマパークがいかに多いか分かる。以前はそれなりに地域密着型の遊園地・テーマパークも集客できていたが、2001年の東西二強時代を迎えて、「遊園地・テーマパークに行く」としたらTDRまたはUSJに行くという文化が根付いてしまったのではないかと。それは両園にとっては集客につながる。そういった議論は文化論者に譲るが、休日に家族や友人同士で遊園地・テーマパークに行き楽しむ時間を共有するという文化は、高度成長以降我国に根づいたと言える。

TDRの成功により、テーマパークという業態の集客力、売上高、話題性、それに伴う広報力（テレビ、雑誌等の取材）が注目され、テーマパークのほうが遊園地より優れたビジネスモデルと認識されていると考えられる。しかし絶叫マシンや大規模なお化け屋敷で若者中心に集客している遊園地も複数あり、必ずしも遊園地よりテーマパークというコンセプトの方が優れているとは言えないだろう。年間100万人以上集客する施設（図表5）を見ると、複数の絶叫マシンや本格的なお化け屋敷で集客する遊園地と、大規模プールで集客する遊園地が見られる。

またナムコ・ナンジャタウンのように、東京・池袋に立地し、室内なので天候の影響を受けず、入場料を300円とし、アトラクションは園内で追加料金とすることで（パスポートもある）、終日の顧客だけではなく、短時間の集客も可能となる。また園内にフードテーマパークを設置することで、300円で入場し、食べたい餃子やスイーツを食べ、乗りたい乗り物があったらそれに数百円を支払って乗るといふ、2~3時間の滞在で1000円から2000円程度の顧客単価の集客も多いと考えられる。

しかし、やはり集客力ある施設は、5000円前後の入場料で、乗り物がフリーパス、飲食やお土産、グッズの購入と支出がかさみ、朝から夕方まで遊ぶという施設が多いだろう。高度成長期以降の典型的な休日のレジャーである。

続いて、遊園地とテーマパークというビジネスモデルを比較したい。伝統的な遊園地・テーマパークのように、土地の確保およびリースの乗り物を揃えるだけでは生き残れないことは間違いないだろう。絶叫マシンや大規模なお化け屋敷で若者中心に集客している遊園地も複数あり、必ずしも遊園地よりテーマパークというコンセプトの方が優れているわけではない。TDR、USJ といった大規模有名施設の成功が突出しているため、テーマパークというビジネスモデルの方が断然優れており、遊園地の方が劣っている印象を与えるだけと考えられる。適正規模で安定した集客を続けている遊園地はある。また大規模で徹底したテーマにこだわっていながらも十分な集客ができずに閉園に追い込まれたテーマパークもある。1983年のTDLの成功により、テーマパークというビジネスモデルが注目され、明確なテーマ設定がテーマパーク産業での勝因の一つとされるようになった。そこから明確なテーマを持ったテーマパークが全国で急増し、数年または10数年の寿命で閉園に追い込まれるケースが多い。テーマの明確化は必要絶対条件であり、それだけでは競争力ある施設になりえないことが分かる。つまりテーマの明確化は必要絶対条件であって、成功の十分条件でないとと言えるだろう。

このように当該産業の現状を考察すると、TDRとUSJの二強時代となったものの、それ以外にも有力な施設は多数あることが明らかになった。TDRとUSJ以外で14施設が年間100万人以上を集客している。マスコミ報道は、TDRとUSJ以外はほとんど競争力を持たないという印象を受けるが、地域密着やニッチ市場の開拓および形成により、二社以外にも独自の魅力で競争力ある施設が多数あることが明らかになった。

今後の研究課題として、第1に各施設のより詳細な調査、研究、第2に、アトラクションを設計、建造する企業の調査、研究をすることである。遊園地・テーマパークのオペレーター企業のみが注目されるが、観覧車、ジェットコースター、メリーゴーランドなどの乗り物を作るメーカーもテーマパーク産業を支える企業であり、研究対象になりうるだろう。

図表1 主な遊園地・テーマパークの開業（草創期：1911～1950年）

| 西暦 | 和暦 | 施設 | 立地 | 備考 |
|------|------|-----------|-----|--|
| 1911 | 明治44 | 宝塚新温泉 | 兵庫 | 「宝塚ファミリーパーク」に名称変更→2003年閉鎖→宝塚ガーデンフィールズ |
| 1912 | 明治45 | ひらかたパーク | 大阪 | 1992年プール「ザ・ブーン」開業 |
| 1922 | 大正11 | あらかわ遊園 | 東京 | 23区内唯一の公営遊園地 |
| 1926 | 大正15 | 豊島園 | 東京 | 現としまえん 1998年ウォータースライダー「ハイドロボリス」開業、2003年「庭の湯」開業 |
| 1926 | 大正15 | 近鉄あやめ池遊園地 | 奈良 | 2004年6月閉園 |
| 1927 | 昭和2 | 小田急向ヶ丘遊園 | 神奈川 | 2002年3月閉園 |
| 1929 | 昭和4 | スカイランドいこま | 奈良 | 「ペットふれあいの森」（別途有料）を併設 |
| 1950 | 昭和25 | 西武園ゆうえんち | 埼玉 | 近隣の「ユネスコ村大恐竜展」が2006年9月閉園 |
| 1950 | 昭和25 | 甲子園阪神パーク | 兵庫 | 2003年3月閉園→ららぽーと甲子園 |

出典：『月刊レジャー産業資料』2008年5月号、85頁の図表2を修正

*備考に閉園となければ現在も営業を継続している（2011年3月現在）。

図表2 主な遊園地・テーマパークの開業（発展期：1955～1982年）

| 西暦 | 施設 | 立地 | 備考 |
|------|-------------------|-----|---------------------------|
| 1955 | 後樂園遊園地 | 東京 | 現「東京ドームシティアトラクションズ」 |
| 1955 | 船橋ヘルスセンター | 千葉 | 1977年5月閉園→ららぽーと TOKYO-BAY |
| 1957 | さやま遊園 | 大阪 | 2000年4月閉園 |
| 1958 | みさき公園 | 大阪 | 2008年「新イルカ館」開業 |
| 1959 | 浜名湖パルパル | 静岡 | ジャンボプール併設 |
| 1960 | 小山ゆうえんち | 栃木 | 2005年2月閉園 |
| 1961 | 奈良ドリームランド | 奈良 | 2006年8月閉園 |
| 1961 | 多摩テック | 東京 | |
| 1961 | 富士急ハイランド | 山梨 | 絶叫マシン等で若者を集客 |
| 1962 | 鈴鹿サーキット | 三重 | |
| 1964 | よみうりランド | 東京 | |
| 1964 | 伏見桃山城キャッスルランド | 京都 | 2003年1月閉園→運動公園 |
| 1964 | 横浜ドリームランド | 神奈川 | 2002年2月閉園→公園、霊園 |
| 1964 | ナガシマスパーランド | 三重 | 絶叫マシンで若者を集客 |
| 1966 | 常磐ハワイアンセンター | 福島 | 1990年「スバリゾートハワイアンズ」に名称変更 |
| 1966 | 三井グリーンランド | 熊本 | 2005年6月、隣接する「九州わんわん王国」閉園 |
| 1967 | 城嶋後樂園ゆうえんち | 大分 | 2007年、モルガン・スタンレーに経営譲渡 |
| 1967 | 東京サマーランド | 東京 | 2007年11月「東京ムツゴロウ王国」閉園 |
| 1972 | エキスポランド | 大阪 | 2007年死亡事故で休園→再開したが2009年閉園 |
| 1973 | 日本ランド HOW ゆうえんち | 静岡 | |
| 1974 | ウェスタン村 | 栃木 | 2007年2月閉園 |
| 1974 | 小田急御殿場ファミリーランド | 静岡 | 1999年9月閉園→御殿場プレミアム・アウトレット |
| 1975 | 沖縄エキスポランド | 沖縄 | 2000年3月閉園 |
| 1975 | 東映太秦映画村 | 京都 | |
| 1978 | アドベンチャーワールド | 和歌山 | |
| 1981 | 神戸ポートピアランド | 兵庫 | 2006年3月閉園→IKEA ポートアイランド |
| 1981 | 東武動物公園 | 埼玉 | 絶叫マシンで若者を集客 |
| 1982 | かごしま国際ジャングルパーク遊園地 | 鹿児島 | 2005年7月閉園→フレスポジャングルパーク |

出典：『月刊レジャー産業資料』2008年5月号、85頁の図表2に加筆修正

図表3 主な遊園地・テーマパークの開業（ブーム：1983～1997年）

| 西暦 | 施設 | 立地 | 備考 |
|------|------------------|-----|--|
| 1983 | 野外民族博物館リトルワールド | 愛知 | |
| 1983 | 東京ディズニーランド | 千葉 | 日本初の本格的テーマパーク |
| 1983 | 長崎オランダ村 | 長崎 | 2001年10月閉園→キャスピレージ(2005年10月閉園) |
| 1984 | 姫路セントラルパーク | 兵庫 | 2003年4月加森観光に譲渡 |
| 1986 | 日光江戸村 | 栃木 | |
| 1989 | グリック王国 | 北海道 | 2007年2月閉園 |
| 1990 | 肥前夢街道 | 佐賀 | |
| 1990 | スペースワールド | 福岡 | 2005年5月民事再生法手続き開始→加森観光に営業権譲渡 |
| 1990 | 登別マリンパークニクス | 北海道 | 2001年4月加森観光に営業権譲渡 |
| 1990 | カナディアンワールド | 北海道 | 1997年10月閉園→市営公園 |
| 1990 | よこはまコスモワールド | 神奈川 | 横浜博覧会の遊戯施設を移して開業 |
| 1990 | 東京セサミプレイス | 東京 | 2006年12月閉園 |
| 1990 | サンリオ・ピューロランド | 東京 | |
| 1991 | レオマワールド | 香川 | 2000年8月に休園→リニューアルして2004年4月「NEWレオマワールド」開業 |
| 1991 | ハーモニーランド | 大分 | サンリオのキャラクターをテーマ |
| 1992 | 呉ポートピアランド | 広島 | 1998年閉園→市民公園 |
| 1992 | ハウステンボス | 長崎 | 2003年会社更生法適用申請→野村プリンシパル・ファイナンスがスポンサーに |
| 1992 | 登別伊達時代村 | 北海道 | 江戸時代の風俗がテーマ |
| 1993 | 東武ワールドスクウェア | 栃木 | 世界の遺跡・建物をミニチュアで再現 |
| 1993 | 伊勢戦国時代村 | 三重 | 安土桃山時代の歴史・文化をテーマ |
| 1993 | 横浜・八景島シーパラダイス | 神奈川 | |
| 1993 | 新潟ロシア村 | 新潟 | 2003年11月閉園 |
| 1994 | 新横浜ラーメン博物館 | 神奈川 | 日本初のフードテーマパーク |
| 1994 | 志摩スペイン村バルケエスパーニャ | 三重 | |
| 1994 | ポルトヨーロッパ | 和歌山 | |
| 1995 | ネイブルランド | 福岡 | 1998年12月閉園 |
| 1995 | 鎌倉シネマワールド | 神奈川 | 1998年12月閉園 |
| 1996 | ウルトラマンランド | 熊本 | |
| 1996 | 加賀百万石時代村 | 石川 | 2006年1月閉園 |
| 1996 | おもちゃ王国 | 岡山 | |
| 1996 | ナムコ・ナンジャタウン | 東京 | フードテーマパークを展開 |
| 1996 | 柏崎トルコ文化村 | 新潟 | 2004年9月閉園 |
| 1997 | フェスティバルゲート | 大阪 | 2004年9月閉園 |
| 1997 | 倉敷チボリ公園 | 岡山 | 2008年12月閉園 |
| 1997 | 富士ガリバー王国 | 山梨 | 2001年10月閉園 |

出典：『月刊レジャー産業資料』2008年5月号、86頁の図表2に加筆修正

図表4 主な遊園地・テーマパークの開業（テーマパーク2強時代：2001年以降）

| 西暦 | 施設 | 立地 | 備考 |
|------|-------------------|-----|---------------------------------|
| 2001 | 横濱カレミュージアム | 神奈川 | 2007年3月閉園（初めから期間限定で営業） |
| 2001 | ユニバーサル・スタジオ・ジャパン® | 大阪 | 2005年ゴールドマン・サックスグループに対してリファイナンス |
| 2001 | 東京ディズニーシー | 千葉 | 東京ディズニーリゾートの第2パーク |
| 2002 | ラグーナ蒲郡ラグナシア | 愛知 | |
| 2006 | キッザニア東京 | 東京 | 子供対象の社会・職業体験施設 |
| 2009 | キッザニア甲子園 | 兵庫 | 子供対象の社会・職業体験施設 |

出典：『月刊レジャー産業資料』2008年5月号、86頁の図表2に加筆修正

図表 5 2000 年度年間売上高トップ 100

| 順位 | 施設名 | 売上高 (千円) | 売上構成比 (%) | | | | | 入場者数 | 一人当たり 売上高 |
|----|-----------------|-------------|-----------|-----|----|----|-----|----------|--------------|
| | | | 入場料 | 乗り物 | 物販 | 飲食 | その他 | | |
| 1 | 東京ディズニーランド | 182877000 | 45 | | 35 | 18 | 2 | 17300000 | 10571 |
| 2 | サンシャイン国際水族館 | 14500000 | 72 | | 12 | 8 | 8 | 971613 | 2304 |
| 3 | 宝塚ファミリーランド | 12865000 | 48 | 15 | 13 | 10 | 14 | 2058000 | 6251 |
| 4 | スパリゾートハワイアンズ | 10975000 | 14 | 6 | 17 | 10 | 53 | 1323299 | 8294 |
| 5 | 東映太秦映画村 | 4996144 | 37 | 14 | 24 | 13 | 12 | 1249036 | 4000 |
| 6 | 東京タワー | 4500000 | 33 | 6 | 4 | | 57 | 2620000 | 1718 |
| 7 | 三井グリーンランド | 4287010 | 21 | 53 | 11 | 13 | 2 | 1184551 | 3619 |
| 8 | アクアリゾート・ルネスかなざわ | 4000000 | 30 | 15 | 4 | 35 | 16 | 999800 | 4001 |
| 9 | 日光江戸村 | 2768548 | | | | | | 750000 | 3691 |
| 10 | ふくしま海洋科学館 | 2730338 | 66 | 0 | 14 | 1 | 19 | 1158770 | 2356 |

出典：『レジャー白書』2001 年度

空白はデータ無し、トップ 10 のみ表示。

*『レジャー白書』からの引用のため、レジャー産業全般を扱っており、遊園地・テーマパーク以外の施設も含んでいる。

*2000 年度のデータのため、2011 年 2 月現在すでに閉園に追い込まれている施設もある。8 位のルネスかなざわ（石川県金沢市）は 2008 年 10 月に閉園（北國新聞 HP）。

図表 6 年間 100 万人以上集客する遊園地・テーマパーク

| 施設 | 入場者数 (人) | | |
|-------------------|------------|------------|------------|
| | 2004 年度 | 2005 年度 | 2006 年度 |
| 東京ディズニーリゾート | 25,021,000 | 24,766,000 | 25,816,000 |
| ユニバーサル・スタジオ・ジャパン® | 8,100,000 | 8,314,000 | 8,689,000 |
| 長島温泉 (ナガシマスパーランド) | 3,887,200 | 3,956,700 | 4,786,500 |
| 鈴鹿サーキット | 2,375,900 | 2,453,200 | 2,522,100 |
| ナムコ・ナンジャタウン | 2,512,833 | 2,186,984 | 2,263,093 |
| ハウステンボス | 2,020,000 | 1,950,000 | 2,140,000 |
| 志摩スペイン村 パルケエスパーニャ | 1,804,000 | 1,562,000 | 1,589,000 |
| スパリゾートハワイアンズ | 1,457,630 | 1,511,334 | 1,546,837 |
| スペースワールド | 1,650,000 | 1,500,000 | 1,480,000 |
| サンリオ・ピューロランド | 1,338,000 | 1,360,000 | 1,373,000 |
| ひらかたパーク | 1,081,512 | 1,493,000 | 1,087,000 |
| 東武動物公園 | 1,081,512 | 955,172 | 1,084,347 |
| としまえん | 1,323,600 | 1,242,000 | 1,069,000 |
| エキスポランド | 1,013,500 | 1,089,600 | 1,043,700 |
| 東京サマーランド | 974,154 | 1,081,162 | 1,028,416 |
| 東映太秦映画村 | 1,056,916 | 1,014,505 | 1,028,357 |

出典：『月刊レジャー産業資料』2008 年 5 月号、85 頁の図表 1 を修正

参考文献

- ・奥野一生 (2003) 『日本のテーマパーク研究』 竹林館
- ・総合ユニコム (2008) 『月刊レジャー産業資料』 2008年5月号 総合ユニコム株式会社
- ・日本生産性本部 (2001) 『レジャー白書』 2001年度 生産性出版
- ・中島 恵 (2005) 「東京ディズニーリゾートの企業理念共有システムに関する一考察」 明治大学大学院 経営学研究科 修士学位請求論文
- ・中島 恵 (2009) 「我国のアミューズメント産業におけるフードテーマパークの発展－株式会社ナムコのケースを中心に－」 明治大学情報基盤機構 『Informatics』 Vol.2, No.2, 67-79 頁
- ・中島 恵 (2010) 「AIDMA から AISAS への購買意思決定の変化－キッザニア東京の事例を中心に－」 『HOSPITALITY』 第17号 163-169 頁
- ・西村秀幸 (2001) 『東京ディズニーランドの秘密』 エール出版社

注

- 1 サンリオ・ピューロランド公式サイト 2004年8月28日アクセス
http://www.puroland.co.jp/company/kaisya_gaiyo.html
- 2 グリュック王国は1989年開業、その4年後の1年間の同園への総入園者数は、約70万人にものぼった。しかし現在は閉園に追い込まれている。
北海道帯広市公式 HP、2011年2月21日アクセス
http://www.city.obihiro.hokkaido.jp/seisakusuisinbu/kouhoukouchouka/shishi_09_2.jsp
- 3 スペースワールドは、1990年営業開始、現在開業21年目である。
株式会社スペースワールド公式 HP、2011年2月21日アクセス
<http://www.spaceworld.co.jp/company/index.php>
- 4 宝塚ファミリーランドは2003年に閉園になっている。
宝塚市 HP、企画経営部制作室制作推進課「宝塚ファミリーランドの閉園について」2011年2月21日アクセス <http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/index.asp?PTN=ofc&OOM=2&ofcd=01010102000000®id=244>
- 5 国土交通省 HP「地方振興」2011年3月5日アクセス
http://www.mlit.go.jp/crd/crd_chisei_tk_000025.html
- 6 我国において、小中学校が義務教育になったのは戦後（昭和20年8月に終戦）である。義務教育は豊かな社会で可能な制度である。
- 7 宝塚市 HP「宝塚市中心市街地活性化基本計画（素案）」2011年2月25日アクセス http://www.city.takarazuka.hyogo.jp/sub_file/01070306000000-kihonkeikaku-soan0601.pdf#search='宝塚新温泉'
- 8 枚方市 HP 2011年2月25日アクセス <http://www.city.hirakata.osaka.jp/freepage/gyousei/tokei/files/keihankousou.pdf>
- 9 西武鉄道株式会社公式 HP「沿線観光事業」2011年3月3日アクセス http://www.seibu-group.co.jp/railways/company/youran/_icsFiles/afieldfile/2010/09/09/youran_p73_76.pdf